

2021 年度一般入試 C 入学試験問題

国語

(2月7日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は17ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
----	-----	-----	-----	-----	-----

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

— 1 —
次の文章を読んで、後の問一～八に答えなさい。

「現実」とはいったい何だろう。人間を取り巻く環境が

X

し、VR技術が普及するなかで、その現実が、実物にソクした形で与えられる

必要はなくなりつつある。私たちは高精細な映像が捕らえたなめらかな肌に欲情したり、「Twitterのハッシュタグひとつで盛り上がる応援と一体になることができる。もちろんこう考えた考え方に対し、スタジアムに足を運び声援で震える空気に身を晒し、しつとりとした温かな肌をこの手で触るとい

う「なまの経験」のなかにこそ現実が存在するのであって、「Twitterのなか、あるいは映像を通じて与えられるのはあくまでも作り物の現実「感」にすぎない、という反論もあるだろう。ただし私がここで注目したのは、実物にソクしているかどうか、現実と現実感の違いは何かという話ではない。それでもヴァーチャルリアリティは虚構と呼ばれず、「現実感」と名指されるといふことだ。作り物と言いつつ虚構と断じられず、「現実」と

冠されるのは、VRに反応する自分の体温の高まりや「Twitterを見ながら感じる緊張感が、まぎれもなく私の経験するものであり、そのありありとした生々しい感覚を否定することはできないからだろう。まちがいに、その感覚は現実にある。VRの現実感を支えているのは、私が実際に経験しているのだという確かさ、経験の直接性と言える。こうした経験の直接性は、VRを批判する人たちも重視するものである。実地で確かめること、じつさに触れること、そうした「なまの経験」こそが現実なのだといふときにも、私が経験することの直接性が現実という言葉の核を担っている。

だが一方で、現実とは私が経験する直接性だけで成り立っているわけではない。画面の向こうのなめらかな肌を「白いトウキのようだ」と感じ、ハッシュタグの言葉に結びつきを確認する。すでにある意味の枠組みによって、直接与えられた感覚は一つのまとまりをもって切り出される。そうやって切り出される現実とは私に私の経験だが、同時に私を超えたより広い文脈や論理によって成立している。白いトウキのような肌が蠟人形のような生気のなさゆえに嫌悪される時代や場所もあるだろうし、言葉の意味はつねに人との関わりや社会の中で規定されている。私が経験する現実を決して

Y

ではない。

それは、「自分の身体」というもつとも直接性が明確と思われる経験においてもそうである。いまここに感じる痛みや空腹感は、他の人にはわからない「私だけ」の経験であるように思われる。しかし、本当にそうだろうか。たとえば、健康診断の翌日、階段を上りながら「血圧が高いですね、息切れしたりしませんか」と言われたことを思い出し、胸の苦しさを突然感じたり、体重計の数値を見た瞬間に自分の身体がしまりなく見えたりする。おそらく一キロ程度の体重の変動を実際の身体感覚としてわかる人は（スポーツ選手ならともかく）そう多くはいないはずだ。【①】しかし、一キロという数字あるいは血圧一四〇オーバーという客観的なデータ（とされるもの）が「自分の身体」というもつとも直接的に感じられるはずの経験に入り込む。【②】私の身体は、数字を通して相貌を変え、私はデータのもとで客観化された身体を感じとる。【③】そこには、身体を客観的に見る視

線、その視線を導くデータや社会的文脈、身体感覚の直接性など、多種多様なファクターが入り込んでいる。【④】しかも、その時々により、身体をめぐる現実においていずれのファクターが前面に出てくるかは変化する。【⑤】ひたすら痛みにとらわれ身体感覚の直接性が際立つときもあれば、太ってしまったと落ち込むときには

Z

における身体だけが現実としてセマ^ウるものになる。あるいは、様々なファクターのズレに苦しむこともある。目の前に提示される血液情報をリアルな病として感じられる人がいったいどれだけいるだろうか。しかし、病^B気だと名指された瞬間に「病人」になつてしまい、だるさに襲われる人もいる。私の身体はこれらのファクターが重なり合い、ときにずれたりするなかで、経験される。

こうして見てくると、私が経験する直接性が現実の核を担うという先ほどの言い方は修正が必要であることがわかる。たしかに現実を私は経験する。だが、その経験は直接であると同時に様々な意味や歴史的な文脈といった一定の論理によつて象^{かたど}られる多層的なものだ。現実^{現実}は直接的経験と論理の多層性のなかで動的に形成され、動的に形成される現実のなかで人はそれぞれにバランスを保ちつつ（時にバランスを崩して）生きている。

（宮野真生子『出逢^あいのあわい——九鬼周造における存在論^{存在論}と邂逅^{かいこう}の倫理

』による。設問の關係上、本文を改めたところがある。）

（注） 1 VR技術——バーチャルリアリティの略で、コンピュータが作り出した空間や世界を体験できる技術のこと。

2 ハッシュタグ——SNS（ソーシャルネットワークワーキング）で使われる#記号のことで、情報の発信や検索のときに使うもの。

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、ア

が 1、イが 2、ウが 3。

ア ソクした

- Ⓐ 立派なソクセキを残す
- Ⓑ ゲンソクとして許可しない
- Ⓒ ソクザに言い返す
- Ⓓ 返済をサイソクする
- Ⓔ ケツソクを強める

イ トウキ

- Ⓐ トトウを組んで悪いことをする
- Ⓑ 古い習慣をトウシュウする
- Ⓒ 突然のことでトウワクする
- Ⓓ トウテツした論理
- Ⓔ 先生のクントウを受ける

ウ セマる

- Ⓐ 塗装がハクリする
- Ⓑ ハクシンの演技
- Ⓒ ガイハクな知識
- Ⓓ ハクジョウな仕打ち
- Ⓔ 過ちをコクハクする

問二 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 4。

- Ⓐ ラジカル化
- Ⓑ リアル化
- Ⓒ フィクション化
- Ⓓ ロゴス化
- Ⓔ デジタル化

問三 傍線部A「ヴァーチャルリアリティ」とあるが、これはどのような「現実」なのか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 5。

- Ⓐ 一般的に言われる現実ではないかもしれないが、作り物ではなく存在を確信することができる「現実」。
- Ⓑ 仮想現実であり虚構の世界であるかもしれないが、経験していると錯覚することができる「現実」。
- Ⓒ 実地で確かめることはできないかもしれないが、ありありと経験することができる「現実」。
- Ⓓ 経験の直接性を味わうことは難しいかもしれないが、頭のなかでは経験することができる「現実」。
- Ⓔ 実際に経験することはできないかもしれないが、「なまの経験」をもたらすことができる「現実」。

問四 空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 6。

- Ⓐ 言葉で表現できるもの
- Ⓑ 私だけで可能になるもの
- Ⓒ 直接性を持っているもの
- Ⓓ 感覚のみで把握できるもの
- Ⓔ 客観的に示されるもの

問五 本文中には次の文が脱落している。この文が入る箇所として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解

答番号は 7。

だが、そこそが私の身体を生きるといふときの現実の姿ではないか。

- Ⓐ ①
- Ⓑ ②
- Ⓒ ③
- Ⓓ ④
- Ⓔ ⑤

問六 空欄

Z

に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

8

- Ⓐ 物質的側面
- Ⓑ 科学的文脈
- Ⓒ 生物学的側面
- Ⓓ 社会的文脈
- Ⓔ 形而上学的側面

問七

傍線部B「病氣だと名指された瞬間に『病人』になってしまい、だるさに襲われる人もいる」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

9

- Ⓐ 自分の身体を分析することができず、数値を示されてやっと自分が病氣だとわかる人もいるということ。
- Ⓑ さまざまなファクターを考慮に入れる医師に病氣だと言われているはじめて納得する人もいるということ。
- Ⓒ 自分では病氣だとは思っていないくても、医師が診たら明らかに病氣である人もいるということ。
- Ⓓ 身体の異変に気づかず、医師に病氣だと言われているはじめて病氣だと気づく人もいるということ。
- Ⓔ 医師から病氣だと診断されることによって病氣の症状を呈しはじめる人もいるということ。

問八

本文の内容と合致しているものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

10

- Ⓐ 現実とは、目の前でおこっている事象を直接感じるだけでは捉えることができない、多様で動的なものである。
- Ⓑ ヴァーチャルリアリティを批判する人たちは、「なまの経験」を重視するが、そのような経験は存在しない。
- Ⓒ いままでとは異なり、人間は自分の身体であっても自分で把握することができない時代に突入しはじめている。
- Ⓓ 現実の捉え方は時代や人によりさまざまであるので、人は現実には翻弄されながら生きていかざるを得ない。
- Ⓔ ヴァーチャルリアリティ技術が普及した現代社会では、経験の直接性に依拠して現実を捉えることができない。

メ モ

試験問題は次に続く。

二

次の文章を読んで、後の問一～六に答えなさい。

二〇一八年に翻訳された『ライフ・オブ・ラインズ』(フィルムアート社)という本でも、インゴルドは人類学と教育の関係について書いています。^(注)そこでインゴルドは、これまでの一般的な学校の教育と、^A彼が考える教育とを明確に区別しています。ふつう教育とは、学習者の頭のなかにあらたな知識を入れ込むことだと思われています。でも、彼はそうではなくて、教育とは学ぶ人を生きられている世界それ自体へと導き出すことだと書いています。

学校教育で教えられ、覚えるべきとされている知識は、あらかじめ定められています。日本でもそうですが、多くは国が決めています。でも、それはインゴルドに言わせれば、ある社会が定めるルールや望ましいとされている秩序といった「意図にもとづく世界」に引っぱり込んでいるに過ぎないというのです。そこでの「世界」とは、それぞれの生きている文脈に関係なく、一律に誰もが知っておくべきものと定められた知識で構成されている、^アカクウの「世界」です。

インゴルドが人類学的教育的な潜在力を考えるときに想定しているのは、その人の生きている現実から離れた一般的な知識を頭のなかに詰め込むのではなく、あくまで個別具体的な経験の世界へと導き出すような教育です。そこで必要なのが、知識で武装するのではなく、目の前に生じている経験の世界に慎重に注意を払うための方法です。それを説明するために、インゴルドは、^B「迷宮」^{ラビリス}と「迷路」^{メイヌ}というたとえを使っています。そのふたつはどう違うのでしょうか？

わかりやすい「迷宮」のイメージとして、インゴルドは、登下校時の子どもたちの歩みを例にあげています。子どもたちは、通学路を X にみて目的地に最短ルートを進むのではなく、驚きと発見に満ちた曲がりくねりとしてとらえて歩いているはずだ、と。

最近の日本の小学校は通学路が決められていて、そこからはずれたり、道草をしたりしてはいけな、と指導されることも多いのですが、子どもは本来、大人たちが定めたルートをそれて道草するのが大好きです。

Y、都市で働いている大人たちは、ある地点から目的地に向けて、ナビに従って最短ルートを進むように歩きます。そこであらわれる道が「迷路」です。目的地に速やかに到達することしか頭になく、誰かに話しかけられて足が止まったり、ルートとは違う道に入り込んでしまったりすること、いずれもある種の「失敗」として経験されます。

迷路を進むとき、私たちはゴールにたどり着くという意図をもって進みます。意図が先にある行動はその結果に過ぎません。それはあらかじめ意図され、決められた知識を覚えるのと似ています。覚えることが目的であって、できれば最短で簡単に覚えられればそれにこしたことはありません。

本来は、最短ルート以外にもいろんな道の選び方があるわけですが、その複数の選択肢は、いずれも目的地にたどり着くという目的から逸れるという意味で、迷路の「行き止まり」と考えられてしまっています。

「迷宮」の道をたどる子どもたちは、たとえば道に不思議な虫がいれば、足を止め、じっとそれを観察するでしょう。そうやってその虫を追いかけているうちに、脇道に入り込むかもしれません。その瞬間、子どもたちにとって目的地である「学校」や「家」にたどり着くことは頭から消えています。迷路を進む大人たちが目的地に向かうこと以外に関心を払わず、行先以外は視界にも入らなくなるのとは対照的です。

インゴルドは、そういう意味で、迷宮が世界に対して開かれているのに対して、迷路は閉じている、と書いています。迷路を進むとき、できれば最短で目的地に到達したいので、その途中で起きる出来事は、すべて余計なことだし、ないほうがよいものになります。そのとき、迷路の歩行者は世界にとつて存在しないも同然なのだ、とインゴルドは言います。

これを読んだとき、私は日本の都会の通勤電車のことを思い浮かべました。通勤電車が毎日楽しいという人はめったにいないでしょう。電車のなかでは、みんな携帯を見つめるばかりで、周囲に注意を払ったり、隣の人とおしゃべりを楽しんだりする乗客はほとんどいません。ぎゅうぎゅうの満員電車ならなおさらそうです。一刻も早く目的地に着いてほしいと、外の世界への意識や感覚を麻痺させて、じっと自分の殻に閉じこもってその時間が過ぎ去るのをこらえる。そのとき、「わたし」という存在は世界に対して閉じていて、存在そのものが世界から失われていると言えるかもしれません。寄り道をしながら、周囲のことに注意を払い、感覚を研ぎすまして驚きと発見のプロセスを楽しんでいる子どもたちと、なんと違うことか、ちよつと目眩まいがするくらいの距離です。

インゴルドは、迷宮の歩みは、目的地にたどり着こうといった「インテンション意図」にもとづくのではなく、たえない周囲の世界への「アテンション注意」にもとづいている、と書いています。そうやって自分の周りに注意を払いながら歩む者は、世界と対話し、影響を与え合い、自分も周囲も少しずつ変化させていきます。Z、世界のなかに確実に存在しているのです。

ちよつと抽象的な書き方なのですが、インゴルドが迷宮と迷路の対比から言おうとしている違いは、ほんやりとわかんと思います。この二つの対比は、そのまま知恵と知識の対比とも重なります。

学校教育が意図をもってあらかじめ用意された「知識」を教え込むことだとしたら、どうやって生きていくか、その歩みのなかでそれぞれが自分や周囲のことに目を向け、その観察と対話とおして、生き抜く方法を見いだしていくことが「C知恵」なのです。

C人類学のフィールドワークでは、客観的な第三者として観察するのではなく、人びとの実践のなかに参加して身体を動かしてマイき込まれながら考える参与観察を重視しています。インゴルドも、この観察者であると同時に参与者でもあるという状態が大切なのだと言います。

参与観察は、対象から距離をとって客観化するのではなく、人や物に注意を払い、そのなかにまじって内側から学ぶ方法です。インゴルドは、それを「調和の実践」^{コレホシテンス}だと言います。

自分の知っている知識をひけらかしたり、その優位さを振りかざしたりする人は、知識をどこか違う場所から収集して、あてはめることばかりに夢中になるものです。自分が直面している現実をちゃんと見ないまま、自分のそばにいる他者やその場から学ぶことがあるとは思ってもしないのです。それに対して、インゴルドが考える人類学的な「知恵」とは、自分の目の前の現実や周囲の人びとをしつかりと観察し、その動きに追従しながら世界を把握する方法です。目的地に一足飛びにたどり着くことを目指すのではなく、どうしたらうまくやれるのか、現実や他者との調和の道を慎重に探索しながら進んでいく歩みなのです。

（松村圭一郎『これからの大学』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

（注）インゴルド——イギリスの社会人類学者。

問一 傍線部ア・イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、ア

が 11、イが 12。

- | | | | | | | | | | |
|----------|-----------|--------|------------|------------|---------|-----------|-----------|------------|--------------|
| ア カクウ | | | | | イ マき込まれ | | | | |
| (e) | (d) | (c) | (b) | (a) | (e) | (d) | (c) | (b) | (a) |
| シンカが問われる | タンカに乗せて運ぶ | ガイカを稼ぐ | 金額のタカは問わない | スンカを惜しんで働く | 忙中カンあり | 要求をカンテツする | 世界にカンたる技術 | カンダンなく雨が降る | 彼の演技はアッカンだった |

問二 傍線部A「彼が考える教育」とあるが、インゴルドが考える教育とはどのようなものか。その説明として最も適切なものを次の選択肢から一つ

選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 13。

- Ⓐ 学ぶ人が個別具体的な経験の世界の中で試行錯誤を繰り返しながら生きるために必要な知識を覚えていくもの。
- Ⓑ 学ぶ人が目の前に広がっている現実と対話的な関係を持ち、その中を生き抜いていく術を身につけていくもの。
- Ⓒ 学ぶ人が意図にもとづいた世界と対話を重ねることによって、世界も自分自身も絶えず変化させていくもの。
- Ⓓ 学ぶ人がルールや秩序にもとづいた世界の中を生きていくうえで大切な知恵を自らの力で見いだしていくもの。
- Ⓔ 学ぶ人が自分の生きている現実を対象化することによって、確固とした自分自身をつくり上げていくもの。

問三 傍線部B「『迷宮』と『迷路』」とあるが、この二つにはどのような違いがあるのか。その説明として適切なものを、次の選択肢から一つ

選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 14。

- Ⓐ 迷宮では目的地までの道中に醍醐味があるが、迷路では目的地に効率的に到達することが重要であるという違い。
- Ⓑ 迷宮では失敗も楽しみながら進んでいけばよいが、迷路では失敗をせずに予定通りに進む必要があるという違い。
- Ⓒ 迷宮では歩む者は成長することができるが、迷路では歩む者は何ら変化を起こすことなく終了するという違い。
- Ⓓ 迷宮ではいかに最長ルートを進むかが競われるが、迷路ではいかに最短ルートを進むかが競われるという違い。
- Ⓔ 迷宮では目的地までの道はいくつもあるが、迷路では目的地までの決められた道が用意されているという違い。

問四 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 15。

- Ⓐ 俯瞰的
- Ⓑ 蓋然的
- Ⓒ 普遍的
- Ⓓ 恣意的
- Ⓔ 理性的

問五 空欄

Y

・ Z

に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。 解答番号は、Y が 16、Z が 17。

- ① まして
- ② 一方
- ③ たとえば
- ④ だから
- ⑤ しかも

問六

傍線部C「人類学のフィールドワーク」とあるが、これについてインゴルドはどのように考えているのか。その説明として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。 解答番号は 18。

- ① 人類学のフィールドでは、研究対象の現状を変化させ、どのようにき方向に導いていくかが重要であると考えている。
- ② 人類学のフィールドでは、知識を見せびらかすのではなく、その知識をいかに実践するかが問われていると考えている。
- ③ 人類学のフィールドでは、研究の成果を上げるためには、研究対象と良好な関係を築かなければならないと考えている。
- ④ 人類学のフィールドでは、感情が豊かであることが重要視され、理性的に物事を捉える人は向いていないと考えている。
- ⑤ 人類学のフィールドでは、研究対象を対象化せずに、それと関わり合いながら観察する態度が大切であると考えている。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、後の問一～六に答えなさい。

優しくなりたいと思うより先に、丁寧になりたいと思うし、だからこそ、花とか草とか育てようとするんだろうな。草花に水をやる時の、あのジアイでもなんでもない、でも、習慣だけではない、どこかにあるであろう特別な感情。それはなんだか人間の本質っぽくて、愛だとかいう言葉が入ってこれないかんじがとてもいいな、と思う。育てる、というのはどうしても手間がかかっていて、ちょっとだけ、報われないところがあつて、それでいて植物はあまりにも自分と異なっているから、簡単には自分がやっていることがいいこととは思えない。共感ができないから。それでもちゃんと毎日をやる、というのはどういう感覚なんだろう。ガーデニングが趣味な人は毎朝ちゃんと起きて、そして水を汲んで彼らに与える。その行為はいつたい、どこにつながっているのだろう。

太陽だとか月のあの規則正しい感じは、ときどき「もう！」と、私をあせらせる。なんであんなに月は規則正しく欠けるのか。なんてね、月も聞かされたって困るだろうけどそんなことで、頭の奥がちよつとだけピリピリする。太陽も毎朝ちゃんとのぼってくるしさ。月に1回ぐらい、月食とか日食とか、起きてくれないと、なんだか自分が不適合生物な気がして悲しい、なんてことを、Xに乗る時考えていた。自分以外はすべて規則正しいほうが、絶対に便利であるはずなのに、それじゃあ我慢できないところがある。ずれていくことや、あいまいであることを世界に求めるのは、なんなんだろうな。簡単にカ^イれる植物とか、そういう面ではかわいいよね。そういえば。

生物というのは、ちよつとどうなるのかわからない、というところがリスクでもあつて、そうしたところが一番の愛嬌^{あいきょう}でもあるのかもしれない。私^Aは基本的に動物が苦手で、幼いころ、動物園のふれあい広場的なところとかは、なんのためにあるのかわからなかったし、ちかづいたこともないぐら이다。それは、なにをするかわからない、という事実が満ち溢^{あふ}れているから。怖いやん？ それはある人にとっては一番のかわいさであるのかもしれないし、それこそが肯定^{こうてい}であるのかもしれない。植物においては、カれてしまうことだって、それはひとつの植物が示した態度で、Yのが普通であるのかもしれない。

人間は、思った通りの返答をしないから、小さなころはそれが無性に怖かった。こう答えるだろうと想像して投げた言葉に、まったく想像もしない返答がかえってきたりして、それが会話のおもしろさであり、会話をする意味だ、なんていうふうに見えるのは高校生とか、大人になってからだ。人間は予想外のものだ、というのが本当に嫌だったし、なんでそんな予想できないものが私の周りには満ちていて、それらと関わらないと生きていけない

いシステムになっているのか、全然理解ができなかった。だって、怖いやん？ そのころ、太陽も月も、規則正しくて、それに疑問を抱いたこともなかった。私にとっては不条理こそ敵で、そのショウチョウ^ウが、生物のあの勝手さだったんだろう。それを受け入れるには、それをおもしろい、と思うには、自分が自分の不条理さに慣れていくしかない。完全に間違いなく行動するのが人間として正しい、なんてことはないのだと、しつけや教育からはみ出たところで知るしかない。ルールは不条理な集団だからこそあるのだと知るまでは、ルールそのものとして、その不条理に怯^{おそ}えるしかないんだろう。

^B ガーデニングが好きとかいう人が、ある程度大人に見えるのはもしかしたらこういうことが理由なのかな、とも思う。どんなに水をやったって、肥料をやったって、かれる時はかれるし、その理由を語ってくれはしないし、それでも一方で、妙に良く育つことだってあるだろう。花屋さんの言った通りにしたのにな、と思いながら、かれてしまった鉢植えを見ると、申し訳ないとは思いつつも、それで「育てて損した」とは思わないのは、たぶん、その結果のあいまいさを最初から承知しているからだ。死んでしまう可能性はいつだってすべての生物に存在していて、たぶんその不条理が、命の定義を形作っている。

（最果タビ『きみの言い訳は 最高の芸術』による。設問の關係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、ア

が 19、イが 20、ウが 21。

ア ジアイ

- (a) ジキを帯びている
- (b) 世のジモクを引く
- (c) トウジ場に出かけていく
- (d) 活動をジシユクする
- (e) ジゼン事業に寄付をする

イ カれる

- (a) コタンの境地に至る
- (b) 就任をコジする
- (c) 士気をコブする
- (d) 事情をコリヨする
- (e) テンコをとる

ウ ショウウチヨウ

- (a) チヨウハツ的なしゃべり方
- (b) チヨウボウのきく高台
- (c) 会費をチヨウシユウする
- (d) ダンチヨウの思いがする
- (e) 資金をチヨウタツする

問二 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 22。

- (a) 人が一杯いるのに誰も知っている人がいない電車
- (b) 座りたいと思ってもどこにも座るスキマがない電車
- (c) 時間通りにやってきて時間通りに出発する電車
- (d) 行きたくない学校に無理やり連れていく電車
- (e) 何もすることがなくただただヒマだけの電車

問三 傍線部A「私は基本的に動物が苦手で」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号

をマークしなさい。解答番号は 23。

- Ⓐ 植物とは違い動物は、自分がいくら可愛いと思って接してもそれには応えてくれないから。
- Ⓑ 動物は思いがけない行動に出ることがあり、どうしても近寄りがたさを感じてしまうから。
- Ⓒ 人間の言葉がわからない動物はどれほど一生懸命に頼んでも期待通りの振る舞いをしないから。
- Ⓓ まだ小さな子供だったこともあり、動物の習性について十分に理解が及んでいなかったから。
- Ⓔ 人間の身勝手さは理解していたが、動物の身勝手さには耐えることができなかったから。

問四 空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 24。

- Ⓐ 愛する
- Ⓑ 怯える おびえる
- Ⓒ 哀れむ
- Ⓓ 憧れる
- Ⓔ 悲しむ

問五 傍線部B「ガーデニングが好きとかいう人」とあるが、それはどのような人か。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 25。

- Ⓐ 何事も合理的に処理しようとするのは無理だと教育され、植物とじっくりと付き合える人。
- Ⓑ 人間が間違いを犯すのと同様に植物も間違いを犯すと諦め、植物と距離をとって付き合える人。
- Ⓒ 小さい時から植物を育てているため植物の習性を学んでおり、植物と自然と付き合える人。
- Ⓓ 思った通りに事は運ばないということを身をもって知っており、植物と淡々と付き合える人。
- Ⓔ 年齢を重ねることによって感情的になることが少なくなり、植物と理性的に付き合える人。

問六 本文の表題として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

26

。

- ㉑ 人間の身勝手さ
- ㉒ 律儀な太陽と月
- ㉓ 愛すべき植物たち
- ㉔ 人間と生物、どっちが好き
- ㉕ ガーデニングの不条理

